

図1

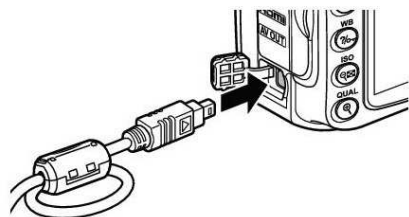


図2

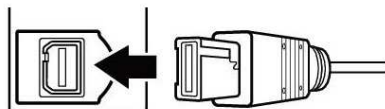


図3

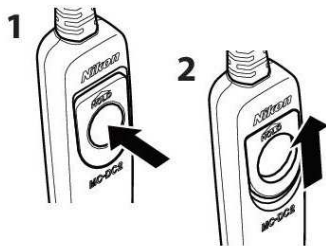


図4

使用説明書

このたびは、リモートコードMC-DC2（以下「MC-DC2」と記載します）をお買い上げいただき、ありがとうございます。本製品は対応するニコンデジタル一眼レフカメラ用のリモートコードで、次のような撮影に便利です。

- ・接写撮影など、少しでも手ブレを防ぎたいときや、コード長の範囲でカメラから離れてシャッターボタンを操作したい場合
 - ・シャッターボタンを押し込んだままの状態でも固定し、長時間露出（バルブ）撮影や連続撮影などを行いたい場合
- 対応するニコンデジタル一眼レフカメラの機種については、ご使用のカメラの使用説明書（別売アクセサリ欄）でご確認ください。

■ 各部名称（図1）

- ① シャッターボタン
- ② ロックスライダー
- ③ コード
- ④ プラグ

■ カメラとの接続方法

（イラストはD90を使用しています）

1. カメラの電源をOFFにします。
2. カメラのアクセサリターミナルカバーを開けます。
3. カメラのアクセサリターミナルにプラグをしっかりと差し込みます。（図2）
 - ・端子の向きを確認し（図3）、無理な力を加えずに端子をまっすぐに差し込んでください。プラグの向きを誤って差し込むと、破損の原因となるのでご注意ください。
4. カメラの電源をONにします。

■ 操作方法

- ・MC-DC2のシャッターボタンは、半押しした場合、最後まで押し込んだ場合ともにカメラのシャッターボタンと同様に機能します。カメラのシャッターボタンの機能については、カメラの使用説明書をご覧ください。カメラの露出表示などはMC-DC2のシャッターボタン操作に連動して、カメラのシャッターボタンを押したときと同様に表示されます。
- ・MC-DC2のシャッターボタンを最後まで押し込んだ状態で、ロックスライダーを「HOLD」側にスライド（図4）すると、シャッターボタンを押し込んだ状態のまま固定することができます。シャッターボタンの固定を解除する場合は、反対側にスライドしてください。

■ 使用上のご注意

- ・カメラの電源がONの状態、MC-DC2を抜き差ししないください。故障の原因となります場合があります。
- ・カメラの誤作動を防止するため、接続は確実に行ってください。
- ・MC-DC2を持ってカメラを持ち上げたり、衝撃を与えたりしないでください。コードの断線や接続部分の破損の原因となります。また、MC-DC2とカメラの接続にはロック機構がありませんので、カメラから抜ける場合があります。
- ・MC-DC2を使用しない場合は、カメラのアクセサリターミナルカバーを閉じて端子を保護してください。

■ 仕様

- 質量： 約45g
- 最大外形寸法： 約23mm × 81mm × 16mm
（幅 × 奥行き × 高さ）（コード含まず）
- コード長： 約1000mm

安全上のご注意

お使いになる前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しい方法でお使いください。

この「安全上のご注意」は製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。内容を理解してから本文をお読みいただき、お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

表示と意味は次のようになっています。

警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

警告	△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。
禁止	⊘記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
強制	●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合は電池を取り出す）が描かれています。

警告

分解禁止	分解したり、修理や改造をしないこと 感電や異常動作によるけがの原因となります。
接触禁止	落下などによって、破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと 感電したり、破損部でけがをする原因となります。販売店またはニコンサービス機関に修理を依頼してください。
すぐに修理依頼を	

水かけ禁止	水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと 発火や感電の原因となります。
--------------	--

使用禁止	引火、爆発のおそれのある場所では使用しないこと プロパンガス、ガソリンなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。
-------------	---

注意

感電注意	ぬれた手でさわらないこと 感電の原因となることがあります。
保管注意	幼児の手の届くところに置かない けがの原因となることがあります。